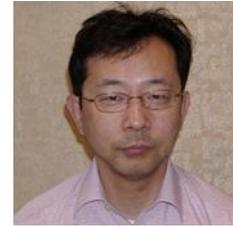


新型コロナウイルス感染症の最新の知見



(一財) 北陸予防医学協会 センター長 医師 武田 三昭

新型コロナウイルス感染症が知られるようになってから9か月近く経ちます。この間多くのことが分かってきました。そのうちの2つについてご説明します。1つは感染症状が軽症から重症まで幅広いことです。軽症者が多いことに目を向ければ、普通の風邪や、インフルエンザと同等と言ってもいいでしょう。しかし、一部は重症となり急激に悪化し死に至ります。高齢者や動脈硬化疾患、免疫力の低下した人、妊婦が重症化しやすいと言われていました。重傷者を出さないためには、感染者の社会的隔離は不可欠です。重傷者を出さないことに重きを置けば、社会の経済活動が破綻し、経済活動に重きを置けば、健康弱者に死者が増えます。

2つ目は感染症の直接の死亡原因は、免疫の暴走(サイトカインストーム)と血栓症と分かったことです。死者の解剖所見では30%に血栓症が確認されています。肺血管に血栓が詰まれば、人工呼吸器も役に立ちません。従って治療には3つの戦略が必要になります。①免疫の抑制(ステロイド剤など)、②血栓の予防、③ウイルスの排除です。したがって1剤で治るという夢の特効薬はないと言えるでしょう。

では我々は、日常生活でどういったことに注意をしたらよいのでしょうか。我々が出来ることは4つあります。①3密を防ぐこと、②手洗い、③マスク、④換気です。中国では3密を防いだ宴会場で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生が報告されています。一人の感染者がいてエアコンの空気の対流に乗ってウイルスの集団感染が発生しています。換気はかなり重要な対策と言えるでしょう。3密を防ぐには人ごみに行かないのが一番です。スーパーとか買い物に出掛ける際には、特に滞在時間を短縮すると重傷者が減るとの結果が出ています。マスクはウイルスの大きさに比べ繊維の網目が大きいので効果に不安がありましたが、布マスクでも感染者のウイルスが周囲にほとんど飛び散らないことがわかりました。地球の南半球は冬ですが、驚くことに、今年はインフルエンザ患者が大幅に減少しています。この現象は日本でも見られています。9月の第1週のインフルエンザ患者数が1桁(3人)に留まっています(今年の1000分の1以下の発生率)。原因はマスク等のコロナ対策が奏功しているようです。今月16日アメリカ疾病予防管理センター所長は「ワクチンよりマスク着用が新型コロナウイルス感染症を防ぐのにより効果的だ」と伝えています。

次回機会があれば、このワクチンの問題点について考えてみたいと思います。ワクチンができて、社会は新型コロナウイルス感染症発生以前には戻らないと思います。続く。